

平成22年1月13日

各 位

安芸高田市学校規模適正化委員
B 委員

小中一貫校及び分校設立の案と中間報告の第5項目についてのご検討のお願い

雪が舞い、寒さが厳しくなってきましたが、委員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、先日の委員会において提案した小中一貫校及び分校の設立につきまして、仮に実施をした場合のシミュレーションを作成しましたので、送付をさせていただきます。

今回、このシミュレーションの作成にあたり、各地域の未就学児童および各小学校の児童数をもとに6年後の児童、生徒数を具体的に出したところ、予想以上に規模が小さくなる小・中学校が多く見られ、私自身改めて驚きと危機感を感じています。今現在のような児童・生徒数が今後も続いていくのであれば、学校規模適正化事業というものも緊急に必要なものではないと思いますが、10年後の子供たちのおかれる教育環境について考えると、やはり何らかの対策を今から考えておく必要があると強く思いました。その対策のあり方については、統廃合もひとつの方法ですが、それぞれの地域のおかれた状況や、何より保護者や子どもたちの思いも考慮したものでなければなりません。また、このことは市民一人ひとりが向かい合い、考えていかなければならない問題だと思います。このたび、委員会の中間報告を公開し、市民に意見を求めることは、市民全体でこの現状に向かい合い、将来の子どもたちの教育の在り方について考えるひとつのきっかけになるのではないのでしょうか。

中間報告の素案の4までは、確かに委員会の中で話し合われた内容であり、望まれる(理想的な)学校規模についても、その規模であれば望ましいということでも出されたものであります。ただし、5の「望まれる学校規模についての取り組み」というところには、具体的な取り組み、対応策の例というものが記されてなく、素案のままの公開では、かえって市民に統廃合を連想させてしまうように思えます。今後どのような取り組みが望まれるのか、幅広く市民に意見を求めるには、考えられる具体的な取り組みをいくつか明記しておくほうが良いのではないのでしょうか。このことについて次回の委員会で協議ができればと思っています。また、今回提案した小中一貫校及び分校の設立という案もその一つとして載せてよいかどうか、ご意見をいただきたいと思っております。

委員会への諮問書に「学校規模適正化事業の実施に際して考慮すべき課題について総合的に検討していただき、その結果を、本市の学校規模適正化計画の策定に当たって参考とします」と明記してあります。残り一年半の任期の間、これまでに出された望まれる学校規模をもとに、その教育環境に近づけていくにはどのような取り組みがされるべきなのか、最終答申までに可能な限りのあらゆる方法を委員の皆様と一緒に話し合っただけで済ませたいと思っております。なにとぞよろしくお願い致します。年末も押し迫り、ご多忙のことと存じますが、どうぞお体お大事に良いお年をお迎えくださいませ。

5 望まれる安芸高田市での学校規模に向け考えられる取り組み

安芸高田市の児童生徒は、地域振興をはじめとする地域コミュニティや住民と深いかかわりがあり、「地域の学校は自分たちが守り育てる」という強い思いと努力により支えられてきた。

地域社会が持つ多様な文化や地域との交流が、子どもたちの豊かな人間形成に大きく寄与する。安芸高田市の望まれる学校のあり方は、次世代を担う子供たちを地域社会全体で育む安芸高田市のまちづくりの理念が根底となり始めて達成できるものであり、同時に合併以前から引き継ぐ学校や地域での様々な伝統や特色ある取り組みは、今後も継続していく必要がある。

以上のことを念頭に置き、安芸高田市での望まれる学校規模へ向け、具体的に考えられる取り組みをあげる。

ここにいくつか取組の例をあげる。
その1つとして以下の案も載せる

～安芸高田市での小中一貫校及び分校の設立～

地域の中学校をもとに小中一貫校を設立し、現在の小学校を分校という形で置く。

1年生から4年生は分校で学び5・6年生は本校で中学生とともに学ぶ。

この取り組みで考えられる効果と課題

○ 効果

- ・ 前節にあげた小規模での良い点が残せる。
- ・ 5・6年生からはある程度的人数の中で学ぶことにより、前節にあげた小規模での課題の多くを解消できる。
- ・ 5年生から中学3年生までという幅広い学年の中で学ぶことにより、より多様な意見に触れながらお互いを刺激し、切磋琢磨しあうことができる。
- ・ 5・6年生においては、中学校の専門教科を担当する教諭からの指導を受ける機会を得やすくなり、より専門的な知識に触れる機会が多く持てるようになる。

○ 課題

- ・ 分校となる小学校は規模が大幅に縮小し、校長、事務職員、養護教諭が配置されないことから何らかの対応が必要となる。
- ・ 本校の小学校と分校の小学校との間に大きな差ができてしまう。
- ・ 学校行事等、規模の小さくなる分校においては運営が厳しくなる。
- ・ 5・6年生から中学生の集団に入ることに戸惑いを感じる子どもたちには、きめ細かな配慮が必要である。
- ・ この取り組みでの効果を上げるには中学校の規模についても検討する必要がある。